

宜野湾高校の生徒達へ（2）

今回紹介する『夜と霧』も『100 de 名著』（NHK）で取り上げられており、東日本大震災後に被災地の仙台と岩手でよく読まれたという。同書の著者は、強制収容所から奇跡的な生還を果たしたユダヤ人で精神科医のヴィクトール・フランクル。同書は、みずから生き地獄を体験し、過酷な環境の中、囚人たちが**何に絶望し、何に希望を見出したか**を克明に記したものである。

フランクルは「**人生はどんな状況でも意味がある**」と説き、生きがいを見つけられずに悩む人たちにメッセージを發し続けた。彼が残した言葉には、先が見えない不安の中に生きる今の私たちに生きるヒントを与えてくれる。

以下は、『100 de 名著 夜と霧』からの引用である。

【生きる意味を求めて】

- ☆「私たちは、自由で自己実現が約束されている環境こそが幸せだと思っている。しかし災害や病気などに見舞われた時、その希望は潰える。収容所はその最悪のケースだ。それでも、幸せはまだ近くにあるのではないか。人間は欲望だけではなく家族愛や仕事への献身など、様々な**使命感**を持って生きている。どんな状況でも、**今を大事にして自分の本分を尽くし、人の役にたつこと**。そこに生きがいを見出すことが大事なのではないか。」
- ☆「過酷な環境の中で**生き残る唯一の道**は、心の支え、つまり生きる目的を持つことである。」
- ☆「生きる意味は**自ら発見するものであり、苦しみは真実への案内役**である。」

【どんな時も、人生には意味がある】

- ☆「あなたを待っている『**誰か**』がいて、あなたを待っている『**何か**』がある。そしてその『**何か**』や『**誰か**』のためにあなたにもできることがある。その『**何か**』や『**誰か**』はあなたに**発見**され**実現**されるのを『**待つて**』いる。」
- ☆「私たちが**なすべきこと、行うべきこと**は、私たちの足下に常にすでに送り届けられている『**意味と使命**』を**発見し、実現**していくこと。『**自分の人生にはどのような意味が与えられており、どのような使命が課せられているのか**』。それを発見し、**実現**するように日々を**全力**で生きていくこと。」
- ☆「人間は、人生から**問いかけ**られている**存在**である。」

【意味のない苦しみはない】 【苦悩の先にこそ光がある】

- ☆「**悩みや不安**はさらなる**成長**に向けあなたが大きな一歩を踏み出し始めているからこそ生じる。与えられた運命を引き受け、それを**バネ**にすることで**成長**が生まれる。」
- ☆「『**人生からの問い**』として与えられた**困難**に**誠実**に向かい合い、苦悩した後に**一条の光**が届けられてくる。」

「**自分の人生に『イエス』**と言える」ような生き方は、簡単ではありませんが、それを意識して日々を過ごすことはできるのではないのでしょうか。

本校職員一同、学校再開後の皆さんの成長した姿を楽しみにしています。そのためにも、「**命**」を**大事**にして下さい。もし、校長メッセージを読んで考えたことなど、報告したいことがあれば、校長室を訪ねて下さい。

宜野湾高等学校長 津留一郎